

2013年6月6日

報道関係者各位

国際基督教大学

国際基督教大学献学 60 周年記念事業
国際基督教大学 (ICU)・カリフォルニア大学 (UC)
国際教育交流 50 周年イベント
(6/24~6/26)

問い合わせ先: ハブリックリレーションズ・オフィス(担当:佐藤、橋本、佐々木)

TEL: 0422-33-3040 FAX: 0422-33-3764 Email: pro@icu.ac.jp

* お手数ではございますが 5 ページ目「取材申込書」を事前送付下さい。

■ イベント概要

2013年に献学(開学)60周年を迎えた国際基督教大学(ICU: International Christian University, 東京都三鷹市)のキャンパスに、カリフォルニア大学(UC: University of California)東京スタディセンターが設置されたのは1964年。以来、両大学間で交換留学をはじめとする国際教育交流が続いています。

交流50周年を迎える今年、その記念事業として、2013年6月24日(月)から26日(水)までの3日間にわたり、両大学のこれまでの歩みを振り返ると共にシンポジウムやラウンドテーブルを開催し、次の50年を見据えた、意義ある新しい国際教育交流のあり方について、両大学関係者で意見交換を行います。

UCからはジャン・ザビエル・ギナル UCEAP (University of California Education Abroad Program: カリフォルニア大学交換留学プログラム) Executive Director (最高責任者)をはじめ、UCの国際教育交流戦略を担う教職員がそろって来日します。

また、この半世紀間に交換留学により両大学を往来した学生が集い、同窓会(アラムナイ レセプション)を開きます。期間内のプログラムは別添「資料1」をご覧ください。言語はすべて英語ですが、事前にご相談いただければ、会場にて日本語で概要をご説明いたします。

■ ICUとUCの国際教育交流の歴史

1969年に両大学間で協定が締結されて以来、UCのキャンパス(現在は10キャンパス)で学んだICU生は約700名、一方ICUで学んだUC生は約1,100名となりました。

現在「グローバル人材育成」がさかんに議論されている日本において、献学当初から留学生を受け入れ、また海外に送り出してきたICUは、戦後日本の国際教育交流の草分けであり、常に先駆的な役割を担ってきました。ICUはUCにとってフランス・ボルドー大学に次ぐ第2の協定校、アジアでは初の交換留学協定校でした。一方のICUでは3年生が交換留学生として派遣されましたが、大学在学中の学生がグループで留学する制度は、当時アジアでも初の事例だったと言われています。

このような背景から1964年、日本におけるUCEAPの拠点として、ICU内に「カリフォルニア大学東京スタディセンター」が設けられました。ここには、UCの様々なキャンパスからディレクター(センター長)が着任し、スタッフと共にUCからの留学生や、UCへの留学を希望する日本の大学生に助言や支援を行っています。現ディ

レクター伊藤順子（UC サンタクルーズ校言語学教授）は第 24 代で、ICU 卒業生です。

ICU-UC の交流は、上記の交換留学プログラムから始まり、夏期プログラムへの学生相互派遣、また両大学の教員がティーム・ティーチングで教え、両方の学生が同じ教室で学ぶ科目の開発*、客員教員招聘へと展開してきました。次の 50 年の国際交流の展望として、体験型学習（インターンシップ）を組み込んだプログラム、理系大学院生の交流、教員交流の可能性について議論します。

*科目名 Contemporary Japan: From *Ramune* to *Anime* / 現代日本：ラムネからアニメまで

<http://ocw.icu.ac.jp:8080/eduCommons/ay2012/majors/MCC251/contents>

■ 今イベントの見どころ（場所はすべて ICU キャンパス内）

サクラの植樹

日時： 6 月 24 日（月）14:00-14:30

場所： ICU 正門から構内に入り右手 2 本目のサクラ付近

UC より贈呈されたサクラの植樹を行います。

ICU 正門から約 600m、大学礼拝堂に向けてまっすぐに伸びる道の両側には、献学時に 106 本のサクラが植えられました。第二次世界大戦後アメリカでは、平和に貢献する人材を育む新しい大学・ICU の献学を目指し、「250 ドル以上の寄附をした大学や団体に日本のサクラの苗木を贈り、記念に植樹してもらう」という募金キャンペーンが展開されました。「広島と長崎への哀悼の意と和解の願いの表れ」として寄附を呼び掛けたバージニア州リッチモンドのジョン・マクリン牧師（本学名誉人文学博士）をはじめ、全米各地の市民の支援が、このサクラ並木を誕生させたのです。世界平和と両大学の交流発展を祈念して、この度老朽化により抜根されたサクラの 2 代目を UC が ICU に贈り、両大学で植樹します。2 代目の植樹は初めてです。

講演会 “Situating ICU in Modern Japanese History（近代日本史における ICU）”

日時： 6 月 24 日（月）16:00-17:00

場所： 湯浅八郎記念館（博物館） キャンパスマップ 8 番

自身も UC サンタクルーズ校から ICU への留学生であり（1967-68 年）、1981 年から現在まで 30 年余、ICU で日本近現代史を教える M. William Steele (M. ウィリアム・スティール)・献学 60 周年記念教授が、“Situating ICU in Modern Japanese History” と題した講演を行います。

会場となる博物館は主に、ICU の初代学長湯浅八郎が収集した民芸品と、キャンパスに散在する遺跡から出土した考古遺物を収蔵しています。湯浅は 18 歳で少年移民として単身渡米し、後にイリノイ州立大学大学院から学位を取得します。帰国後、京都帝国大学の教授となりましたが、当時自分に「東洋的教養」が全くないことに気づいた湯浅は、第一回日本民藝展を訪れた際、柳宗悦が唱えていた民芸と出会い、「東洋 文化の精華」を直感し、古道具屋で「民芸品」を探すようになりました。

公開シンポジウム “Study Abroad and Academic Integration（学部教育と留学プログラムの統合）”

日時： 6 月 25 日（火）13:00-16:00

場所： 東ヶ崎潔記念ダイアログハウス 2 階 国際会議室 キャンパスマップ 17 番

これまで両大学は学生に海外留学を奨励し、留学を通じて、グローバルな視野を広げるだけでなく、関心ある分野の知識を拓げる機会を提供してきました。複数大学の事例を通して、留学を 4 年間の学びの中にどう位置付けるかを考察すると同時に、意義ある海外留学とその課題について議論します。

アラムナイ レセプション

日時： 6月26日（水）19:00-21:00

場所： 大学食堂 キャンパスマップ 16 番

この協定によって学んだ日米の同窓生と ICU 生を集め、レセプションを開催します。当日は、共に ICU-UC の交換留学プログラムにより留学した、竹内弘高・ハーバード ビジネススクール教授 (ICU 卒)、マイケル カワチ・アマゾン ジャパン副社長 (UC 卒、現在学校法人国際基督教大学理事) も参加予定です。また、日本 IBM からカリフォルニア大学バークレー校大学院で修士号を取得した北城恪太郎・学校法人国際基督教大学理事長 (文部科学省中央教育審議会委員、日本 IBM 相談役) が、冒頭で歓迎の挨拶を行います。

別添 資料1 「ICU 献学 60 周年記念事業/ICU-UC 交流 50 周年イベント」プログラム

別添 資料2 ICU-UC 交換留学生数の推移 (1969-2012)

資料3 カリフォルニア大学

1868 年、バークレーにおいてカリフォルニア州の学問・科学的ニーズに応える州立大学として創立されたカリフォルニア大学は、今日、州内に 10 キャンパスを数える世界最大級の大学システムに発展しました。学生数は 22 万人、教職員 17 万人、世界で活躍する卒業生は 150 万人を超えます。世界最高峰のアカデミックレベルを担う大学教授陣からはこれまで 59 名のノーベル賞受賞者を輩出、また全米公立大学ランキングでは、トップ 10 に 5 大学がランキングされるなど、他の州立大学システムの追従を許さない高い教育レベルと充実した研究施設を誇っています。中でも農業、医学、技術、環境のパイオニアです。キャンパスには大小 100 以上にのぼる図書館があり、その文献所蔵量は、米国国会図書館に次ぐ規模となっています。また、充実した奨学金制度でも有名です。

カリフォルニア大学の各キャンパス名

UC Berkeley (バークレー校) UC Riverside (リバーサイド校) UC Davis (デイビス校)

UC San Diego (サンディエゴ校) UC Irvine (アーバイン校)

UC San Francisco (サンフランシスコ校) UC Los Angeles (ロサンゼルス校)

UC Santa Barbara (サンタバーバラ校) UC Santa Cruz (サンタクルーズ校)

UC Merced (マーセド校)

資料4 国際基督教大学

キリスト教の精神にもとづき、「国際的社會人としての教養をもって、神と人ともに奉仕する有為の人材を養成し、恒久平和の確立に資すること」を目的に、1953 年に日米市民と教育関係者、キリスト教関係者の寄附により開学した日本初の教養学部一学部の大学 (リベラルアーツカレッジ) です。

その目的実現のため、三つの使命 (学問への使命、キリスト教への使命、国際性への使命) を掲げ、文理を超えた多様な学問領域での学びを通して知識を統合する力を身に付けた後、3 年次に自身のメジャー (専修分野) を決定します。“Later Specialization” (専門化を急がず、自分にあった専門を見きわめるべく幅広く学ぶための時間を重視する) という考え方に立ち、少人数教育により学生一人ひとりが主体的に科目を選択できるよう適切なアドヴァイジングを行います。このような教育をリベラルアーツといいます。キャンパスには 12 の学生寮と教員住宅が

あり、生活も教育の一環と位置付けられています。

卒業生は例年約 20%が大学院へ進学、医療や法曹関係者、あるいは研究者を目指します。就職希望者に対する就職内定率は 94% (2012 年度)。多彩な学びを映して、内定企業はメーカー、金融、マスコミ、国際協力 NGO など多様な業種、広く世界に広がっています。

週刊朝日進学 MOOK『大学ランキング 2014 年度版』では、「高校からの評価 (キリスト教主義大学)」第 1 位、「大学図書館総合 (学生 1 人あたりの貸出など)」第 1 位、「学長からの評価・教育分野」第 3 位、「国際ボランティア (参加学生)」第 3 位、「外国人教員比率」第 7 位「学長からの評価 (注目する学長)」第 6 位 —— と、その教育は高い評価を得ています。